opusdei.org

教皇および司教との 一致

ハビエル・エチェバリーア属 人区長の著作「Itinerarios de vida cristiana(キリスト者の 生き方)」第5章の一部分を 紹介します。

2005/05/06

ラテン教会の典礼では、少なくとも 紀元3世紀から、ミサの中でローマ 教皇とその地区の司教のために祈っ ていました。ご聖体の内に卓越した 方法で実現され表現されている教会

の一致が、教皇や司教との一致にお いて実現すべきことが、このことか らもはっきりと見て取れます。キリ スト自身が教会を設立し、信者たち が互いに兄弟であると感じ、それを 知り、神の子の身分を受け、共通の 使命に応えるように望まれたので す。さらに、教会が一つの共同体と して建てられることも望まれまし た。その中に様々な任務、賜、役割 分担を持つ人々がいて、全体を構成 します。主は、その中心を成すもの として特別に司教職を制定しまし た。司教は、実際に十二使徒の後継 者であり、その頭だったペトロの後 継者に当たるローマ司教と共に、そ の下で、司教団を形成します。この ようにイエス・キリストによって制定 された使徒の継続性は、途切れるこ となく世々に伝えられ、その絆をさ かのぼれば十二使徒にまで至りま す。これが教会における教皇と司教 の正統件の根拠であり、司教たち

は、キリストから叙階の秘跡の充満 を受けているのです。

神の民の各部分はそれぞれの司教を 有し、それが全体の見える一致の礎 になっています。司教は、司祭と助 祭の協力を受けながら、キリストに よって建てられた信者に対して第一 の責任者です。司教には、キリスト の代理として福音を宣べ伝える使命 が、キリストの名によって与えられ ています。司教は恵みの管理者であ り、何よりもご聖体の執行におい て、そうです。司祭たちは、司教と の交わりのうちに聖体の祭儀を執り 行います。各司教は、キリストの代 理者として託された共同体の統治に 当たり、勧告や助言、命令によって 人々の使徒職と聖性への熱意を奮い 立たせるように努めます。

ローマ司教、つまり教皇で司教団の 頭は、普遍教会の牧者であり、全キ リスト者に共通の父であり、福音の 真理に対して教会の忠実な継続を保証する礎です。第2バチカン公会議が次のように述べています。「(教皇は)原理であり、永久の礎であり、司教たちやすべての信者の見える一致の印である。」

教皇と司教たちは、聖パウロの言葉 を実践し、信者の必要に身を粉にし て応えるよう招かれています。「だ れかが弱っているなら、わたしは弱 らないでいられるでしょうか。だれ かがつまずくなら、わたしが心を燃 やさないでいられるでしょうか。| (2コリント11.29) 聖書のよき牧者 のたとえ話の教えを考察してみま しょう。危険が迫ると群れを置いて 逃げ出してしまう牧者に羊はついて 行きません。このように雇われ人と して振舞うのではなく、羊に自分の 命を与える真実の牧者として振舞う のです。

教会の任務、特に司教の任務に当て はまる特徴を一言で表すとすれば、

「奉仕」という言葉がもっともふさ わしいでしょう。第一にキリストご 自身に仕え、次いでキリストの教 え、秘跡に仕えます。なぜなら、教 会において牧者たちが立てられたの は、自分の言葉を語るためではな く、イエスの言葉を忠実に示し伝え るためだからです。そして、羊の群 れを恵みと真実のいのちへと導く水 路のような役目をします。こうし て、主から信仰における世話を託さ れた兄弟たちやキリスト者に奉仕す るのです。

教会において牧者が執行する権能と 権威は、イエス・キリストの命令に従 順である限りにおいて正当なものと なります。実際、神の仕事に関する 地位やその能力は無償で頂いた賜で あり、身に余る役目です。神の命令 に一致してそれを引き受け、人々の ためにその使命を全うしなければな

りません。このことは、自分自身を 忘れ、効果的にキリストの共同体に 献身的に奉仕することを牧者に求め ます。また、信者に対しては、キリ ストの牧者たちを诵して教会全体に 聖性追求の道を歩み易くする賜が与 えられたことを理解するよう求めま す。叙階の秘跡を通して教会に位階 制を制定したのは主ご自身であり、 聖霊を注ぎ込むことによって主がそ れを支えられています。だから、教 会に聴くことはキリストに聴くこと であり、代理者を通して神は私たち に語りかけます。これらの代理者を 通してキリストが示されていのです から、教会を愛することはキリスト をこよなく愛することになります。

第2バチカン公会議で強調されたのは、前にも取り上げたように、すべての信者は洗礼によってキリストに付き従う者となっただけでなく、キリストの神秘体の部分となり、キリストの祭司職に参与する者となりま

 との一致の絆を強めていきます。そして、教皇とペトロの後継者との交わりにある司教に対して生き生きとした真摯な憧れを育てます。さらに、誠実でゆるぎない子としての愛情をローマ教皇と世界中の司教に捧げ、熱心に祈るのです。

このように、教会的な感覚を持ち、 自発的に使徒職をしながら個人リアを 責任を果たすとき、聖ホセマの人で話していた「すべての人で、 マリアを通って、対自分の望みになりませに、 ペトロとが自分の望みにないますでよが自分の対して、 エストロと教会と一致して、 エストロと教会と一致して、 と教会と一致して、 となった。 りた、 して、 の力強いご保護の下に、 くして、 の中の方であるイエス様のところの 辿り着くでしょう。

huang-oyobisi-jiao-tono-zhi/ (2025/11/20)